

第2次「アフリカ系の人びとのための国際10年」が必要である

2024/11/08

国連人権高等弁務官事務所

国連人権担当事務次長補佐の Ilze Brands Kehris は、国連事務総長を代表し、「アフリカ系の人びとのための国際10年」終了を記念するハイレベル会合で、第2次「国際10年」の必要性を訴えた。「歴史は、人種主義、差別、不寛容が、いかに人びとの尊厳の中樞を攻撃し、人びとから機会や主体性、権利を奪い、人と人とのつながりを弱体化させながら、社会の根幹を蝕んできたかを示している。アフリカ系の人びとは何世紀にもわたり、奴隷制度、植民地主義、その他抑圧的なシステムの痛ましいレガシーと闘い、今日においても、それらは日常生活に影響を及ぼし続けている。人種主義からの自由を実現するためには、包括的で焦点が絞られ、強力なリーダーシップと政治的意思に基づいた、第2次「国際10年」が鍵となる。現行の活動は第2次「国際10年」の土台となるが、10年たった今、長年の問題と新たな課題の両方に取り組むためには、さらなる要素が必要である。その際に、1. これらの要素を アフリカ系の人びとやすべての地域の市民社会によって、そしてともに形成すること、2. 悪影響を及ぼす権力構造や制度的慣行を撤廃し、不平等を悪化させ持続させる差別的なルールを廃止すること、3. さまざまな形での賠償に関する建設的対話を継続すること、4. 社会全体からのアプローチが必要である。これらに基づいた第2次国際10年は、すべてのアフリカ系の人びとの認知、正義、発展に向けた重要な一歩となるだろう。」